

報告

国際文化学科における英語科教員免許資格に関する現状と課題

田中菜採¹・西田光一¹・Amy Wilson²¹山口県立大学国際文化学部・²山口県立大学高等教育センター

1. 調査の目的

英語科教員免許資格に関する本学の現状と課題を確認するため、国際文化学科在学学生を対象としたアンケートを実施した。本稿ではその結果を報告し、在学学生の英語科教員免許に対する認識から、今後の課題を探る。

2. 調査の手法

2.1 対象者

2017年度に国際文化学科に在学している学生を対象とした。回答者は合わせて123名で、学年の内訳は表1の通りであった。今回の調査では、主として1・2年生を対象としている。

表1. 協力者の学年内訳

	人数	%
1年生	55	44.7
2年生	44	35.8
3年生	18	14.6
4年生	4	3.3
5年次以降	2	1.6

注. アンケート項目1.1の回答に基づく。

2.2 アンケート

アンケートには択一式・複数回答の選択問題と自由記述を交えた計14項目が含まれている。2部に分かれており、回答者自身に関連するセクション1（6項目）と英語科教員免許の活用に関連するセクション2（8項目）の構成であった（実際に行ったアンケートの質問項目はAppendix Aを参照のこと）。

なお、本アンケートの作成・実施にあたって本学生命倫理委員会の承認を受けた。

2.3 アンケートの実施手順

アンケートはウェブ上のGoogle Formを利用して2017年10月30日(月)~11月3日(祝)の1週間で実施した。1年次、2年次、3年次が履修する授業で規模が大きいものを中心に協力を呼び掛けた。また、4年次以上の学生に対しては国際文化学科の各教員から個別に依頼した。協力者はGoogle formにアクセスして、アンケートに回答した。回答に要する時間は5分~10分程度であった。

3. 結果報告

ここではセクション2の英語科教員免許の活用に関連する質問項目の結果についてまとめる。

3.1 入学前・入学時点の教職に対する希望

項目2.1「入学前に国際文化学科で英語の高校教員免許が取得できることを知っていましたか」の結果は以下の通りで、大半の協力者が予め知っていたが（108名）、一部の学生（15名）は知らなかったと回答している。この中には英語科教員免許の取得を希望する者（教職課程を履修中）も2名（1年次、3年次各1名ずつ）含まれる。また、項目2.2の結果から入学時点で教員免許に興味があった学生は比較的多い（表2参照）。ただし教職オリエンテーションに参加できなかった学生もいるので、このような学生を減らすことが今後求められる。

表2. 項目2.2の結果

	人数	%
興味があったので、教職オリエンテーションに参加した	48	39
興味があったが、教職オリエンテーションには参加しなかった	16	13
興味はなかった	59	48

3.2 教職課程の履修状況

項目2.3「英語教員の教職課程を履修していますか」について、以下の4通りに分類した（表3参照）。その理由については表4,5にて示した。

表3. 項目2.3の結果

	人数	%
a. 教職を履修中	19	15.4
b. 現在履修中だが、継続するか分からない	5	4.1
c. 以前履修していたが、やめた	4	3.3
d. 教職は履修していない	95	77.2

表4. 項目2.4の結果 (N = 21)

	人数	%
山口県の教員採用試験を受けて県内の英語の教員になる予定	4	20
山口県外の教員採用試験を受けて県外の英語の教員になる予定	10	50
私立高校の教員採用試験を受けて私立高校の英語の教員になる予定	2	10
就職のため	4	20
念のため	5	25

注. 項目2.4は項目2.3の「a. 教職を履修中」と回答した学生のみを対象に聞いたものであるが、一部、「b. 現在履修中だが、継続するか分からない」とした学生も2.4で回答していた。

県内と県外の教員採用試験を受ける予定の回答者もいた。教員採用試験は日程が重ならなければ、複数受験することは可能なので、1つの戦略と考えられる。また就職活動等、教員になる目的ではなく活用したいと考えている回答者も数名いることが分かった。

表5. 項目2.5の結果 (N = 21)

	人数	%
授業が多くて大変そう	9	47.4
教育実習が大変そう	5	26.3
教職に必要な科目を履修できなかった	0	0
留学との兼ね合い	7	36.8
その他（進路が定まっていない・迷っている、ほかの希望職種ができた、就活との兼ね合い）	4	21.2

表5内の教職課程の履修を中断した・するかもしれない理由として、教職に必要な科目を履修できなかったことを挙げた協力者はいなかったことから、学生は本格的に教職科目を履修する前の段階で履修科目が多いこ

とで負担を感じているのかもしれない。また、その他の回答から教育実習の時期が就職活動と重なってしまうこと（後述）や長期留学をすると在籍年数が伸びてしまうことから、教職課程をあきらめた学生もいるようだ。

3.3 英語教員免許に対するイメージ、期待および疑問

英語教員免許や英語教職に対するイメージ・期待を確認するため、以下では項目2.7「英語教員免許を持っていたら、どのようなメリットがあると思いますか」で挙げられた自由記述（抜粋）を分類した。

(1) 教員としての活用や就職活動に関すること

- ・安定した職につける / 教員として安定して働ける。
- ・就職が必ずできる / 就職に有利
- ・企業に就職できなかった時に使える / いざとなったときに教員として採用される
- ・再就職に有利 / 仕事がなくなっても大丈夫そう

(2) 英語教員以外の活用方法に関すること

- ・教員以外にも、役立つ機会があると思う。
- ・たとえ（著者注：教員に）ならなくても人に英語を教えることができる。
- ・学習塾などで仕事をする際などに活用できる / 将来的に自分で英語教室を開けたりするのかなと思う
- ・免許という肩書き / 免許を持っている安心感がある

教員志望でない学生も含めて、英語教員免許の印象として「持っていれば何かのときに役に立つだろう」というイメージが先行しているようだ。ただし、英語教員として採用されるためには、各自治体の教員採用試験や私立学校の試験に合格しなければならない。

また、現在の教員免許は更新制であるため、再就職時に活用したいのであれば、一定の期間後に教員免許更新講習を受ける必要がある。さらに教員免許更新講習の受講資格は、現職の教員か教員としての勤務経験を持つ者に限られるので、「取りっぱなし」では免許の活用が難しい点に注意が必要である。

(3) 英語能力等に関すること

- ・英語が上手くなる / 英語が使える
- ・一定以上の英語のレベルを認められる / 在学中の学習量が一定以上であるという指標になる
- ・英語を教える資格を持っているという証明になり、また自身にとっても教育できる能力があるという自信に繋がる

英語教員免許を持っていれば英語能力が高いと考えられているようである。文部科学省が中学校・高等学校の英語教員として推奨する英語能力はCEFR B2レベル¹⁾ (英検準1級, TOEIC L&R 785点程度等) であるが、実際にそのレベルに達している教員は平成28年度時点で約60%であるというデータ²⁾もある。このように就職活動等の場で英語の教員免許 = 英語能力として認められるかは未知数なので、英語学習についても同時並行で進める必要がある。自治体によって、TOEICの得点等英語試験の達成度で教員採用試験時に受験制限が設けられるか優遇措置が取られていることがある (山口県の高等学校・中学校の英語教員受験者は、英検1級またはTOEFL iBT97点以上またはTOEIC860点以上の取得が必要)。

(4) その他 (誤解等)

- ・ 残業が少ない
- ・ 国家資格なので将来再就職などを考えたとき履歴書に書ける。

3.4 英語教員免許に関する疑問等について

以下では、項目2.8について挙げられた自由記述の回答を分類した。主に、就職活動への影響に関する質問と履修に関する質問・要望に集約される (カッコ内は該当の回答者の年次)。

(1) 就職活動への影響に関すること

- ・ 就活、留学との兼ね合いがどうなるのか (1年次) / 教育実習が就職活動にどう影響してくるか (2年次)
- ・ どれくらい就職に有利になるのか (1年次)
- ・ 外国でも通用するか (2年次)

教育実習は5~6月 (実習校によっては9月以降) に3週間程度行われ、教員採用試験の一次試験は主に7月に実施される。一方で就職活動は現在4年生の6月に解禁になることから、両者の日程が重なる可能性が高い。

(2) 履修に関すること

- ・ 履修が1年からで考える暇がなかったのが残念だった。(1年次)
- ・ 自由単位を減らして、卒業単位にしてほしい。(2年次)

1年次前期から教職に関する科目の履修が始まることから、入学時に教職課程を履修することを決定しないと後から付け加えることは難しい。従って、入学時のオリエンテーションにて教職オリエンテーションを周知する必要がある。

(3) その他

- ・ 中学校の英語教員もとれるようにしてほしい。なぜ高校のみなのか気になる。(2年次)

4. まとめ

今回のアンケートより、教員になる際の試験や免許の内容について予想以上に知られておらず、誤解等も含まれていたことが分かった。教育実習や教員採用試験のスケジュールと長期留学や就職活動の兼ね合いについて事前に把握できておらず、途中で教職課程をあきらめた学生の存在も明らかになった。今後は、事前に想定されるスケジュールを示すことが必要になるだろう。

今回のアンケートは試行であり、回答者の学年に偏りが見られた。今後は継続して国際文化学科の全員を対象として調査を行い学生のニーズを把握する必要がある。

- 1) CEFR (Common European Framework of Reference for Languages; ヨーロッパ共通参照枠) : 言語能力を評価する国際指標で、日本の言語教育にも応用されている。A1 (初学者), A2, B1, B2, C1, C2 (上級者) のレベルに分かれる。文部科学省が高校生卒業時まで求めている英語能力はB1レベル (英検2級, TOEIC L&R550点程度)。CEFRの各レベルと英語試験の得点との対応については文部科学省の対照表を参考にした。
- 2) 文部科学省発表の以下のデータを参考にした。 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/04/07/1384236_01_1.pdf#search=%27%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E6%95%99%E5%93%A1+%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E5%8A%9B+%E6%96%87%E7%A7%91%E7%9C%81%27

Appendix A: 本調査で使用したアンケート

【国際文化学科生対象】英語教職アンケート

本アンケートは英語科教員免許の履修状況・活用状況を調査する目的で、国際文化学科に在籍するみなさんを対象に実施しています。教職課程履修中の人もそうでない人もぜひご協力ください。

※本アンケートは匿名で実施しますので、アンケートに答えること・答えないことで、特定の授業の成績等に影響を与えることはありませんのでご安心ください。アンケートの結果は、統計処理にかけ個人が特定されない形で本学国際文化学部紀要に掲載される予定です。※

1. あなたのことについて教えてください

1.1 【全員】学年を教えてください* (択一式)

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- 5年次以上

1.2 【全員】留学経験を教えてください* (複数回答可)

- なし ⇒質問1.4へ
- 大学が企画・募集した、1か月以内の語学研修 ⇒質問1.3へ
- 大学が企画・募集した、1か月以内のフィールドワーク ⇒質問1.3へ
- 大学が企画・募集した、長期留学 (交換留学等を含む) ⇒質問1.3へ
- それ以外のプログラム ⇒質問1.3へ
- その他: _____

1.3 【1.2で「なし」以外を回答した方にお聞きします】留学経験について、滞在国、滞在期間等について具体的に教えてください

1.4 【全員】現在考えている進路について教えてください* (択一式)

- 企業等に就職
- 大学院等に進学
- 教員志望
- 今はまだ考えていない
- その他: _____

1.5 【全員】1.4で答えた進路を検討している理由・動機があれば教えてください

1.6 【全員】現在、取得を希望している資格・免許を教えてください* (複数回答可)

- 英語科教員
- 日本語教員
- 図書館司書
- 学芸員
- 取得希望の免許資格はない
- その他: _____

2. 英語教員免許について教えてください

2.1 【全員】入学前に、山口県立大学国際文化学部国際文化学科で英語の高校教員免許が取得できることを知っていましたか* (択一式)

- 知っていた
- 知らなかった
- その他： _____

2.2 【全員】入学当初に、高校英語教員免許に興味はありましたか* (択一式)

- 興味があったので、教職オリエンテーションに出席した
- 興味はあったが、教職オリエンテーションには出席しなかった/できなかった
- 興味はなかった

2.3 【全員】英語教員の教職課程を履修していますか* (択一式)

- a. 現在、教職用の授業を履修しており、卒業時に免許を取得する予定である ⇒質問2.4へ
- b. 現在、教職用の授業は履修しているが、今後継続するか分からない ⇒質問2.5へ
- c. 以前、教職用の授業を履修していたが、今は履修していない ⇒質問2.5へ
- d. 入学時から教職用の授業は履修していない ⇒質問2.6へ
- その他： _____

2.4 【2.3で a と答えた方にお聞きします】英語教員の教職課程をどのように活用する予定ですか (複数回答可)

- 山口県の教員採用試験を受けて、県内の英語の教員になる予定
- 山口県外 (地元等) の教員採用試験を受けて、県外で英語の教員になる予定
- 私立高校の採用試験を受けて、英語の教員になる予定
- 教員になる予定はないが、就職活動で有利になるため
- 教員になる予定はないが、念のため
- その他： _____

2.5 【2.3で b, c と答えた方にお聞きします】その理由を教えてください (複数回答可)

- 授業が多くて大変そう
- 教育実習が大変そう
- 教職に必要な科目を履修できなかった/単位を落としてしまった
- 留学との兼ね合いで難しい
- その他： _____

2.6 【2.3で d と答えた方にお聞きします】その理由を教えてください (複数回答可)

- 教員になる予定がない
- 英語が苦手/嫌い
- 履修科目が大変そう
- その他： _____

2.7 【全員】英語教員免許を持っていたら、どのようなメリットがあると思いますか。自由に教えてください。

2.8 【全員】英語教員免許の履修・活用について、知りたいこと、希望等あれば自由に書いてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

注. *は回答必須項目を示し、Google form上ではこの項目が入力されていなければ回答を送信することができない。
カッコ内下線部の内容は、実際にはアンケートには表示されていない。

Appendix B: アンケート回答の概要

1. あなたのことについて教えてください

1.1 【全員】 学年を教えてください (123名)

(2.1節 表1参照のこと)

1.2 【全員】 留学経験を教えてください (123名)

	人数	%
なし	54	43.9
大学が企画・募集した1か月以内の語学研修	50	40.7
大学が企画・募集した1か月以内のフィールドワーク	6	4.9
大学が企画・募集した長期留学	3	2.4
それ以外のプログラム	15	12.2

1.3 【1.2で「なし」以外を回答した方にお聞きします】 留学経験について、滞在国、滞在期間等について具体的に教えてください (49名)

(回答省略)

1.4 【全員】 現在考えている進路について教えてください (123名)

	人数	%
企業等に就職	81	65.9
大学院等に進学	4	3.3
教員志望	10	8.1
今はまだ考えていない	21	17.1
その他 (公務員, 悩んでいる)	6	4.8

1.5 【全員】 1.4で答えた進路を検討している理由・動機があれば教えてください (42名)

(省略)

1.6 【全員】 現在、取得を希望している資格・免許を教えてください (123名)

	人数	%
英語科教員	24	19.5
日本語教員	44	35.8
図書館司書	13	10.6
学芸員	5	4.1
取得希望の免許はなし	50	40.7
その他 (秘書検定, 通訳案内士)	2	1.6

2. 英語教員免許について教えてください

2.1 【全員】 入学前に、山口県立大学国際文化学部国際文化学科で英語の高校教員免許が取得できることを知っていましたか (123名)

	人数	%
知っていた	108	87.8
知らなかった	15	12.2

2.2 【全員】 入学当初に、高校英語教員免許に興味はありましたか (123名)

(3.1節 表2参照のこと)

2.3 【全員】 英語教員の教職課程を履修していますか (123名)

(3.2節 表3参照のこと)

2.4 【2.3で a と答えた方にお聞きします】英語教員の教職課程をどのように活用する予定ですか (複数回答可) (21名)

(3.2節 表4参照のこと)

2.5 【2.3で b, c と答えた方にお聞きします】その理由を教えてください (複数回答可) (21名)

(3.2節 表5参照のこと)

2.6 【2.3で d と答えた方にお聞きします】その理由を教えてください (複数回答可) (95名)

	人数	%
教員になる予定がない	79	83.2
英語が苦手・嫌い	5	5.3
履修科目が大変	21	22.1
その他 (高校の英語の先生になりたいと思わない)	1	1.1

2.7 【全員】英語教員免許を持っていたら、どのようなメリットがあると思いますか。自由に教えてください。

(3.3節を参照のこと)

2.8 【全員】英語教員免許の履修・活用について、知りたいこと、希望等あれば自由に書いてください。

(3.4節を参照のこと)

Research on the Misconceptions Surrounding the English Teacher's License Among Students of Department of Intercultural Studies

Natsumi TANAKA¹, Koichi NISHIDA¹, Amy WILSON²

¹Department of Intercultural Studies

²Center for the Advancement of Higher Education, Deputy Director (Head of Global Division)

Abstract

This paper analyzes the results of a questionnaire on English teachers' licenses. To gain insight into the students' image and understanding of English teachers, the questionnaire was administered online to 123 undergraduates of Department of Intercultural Studies. Participants included students who have taken the teacher-training course, those who stopped taking the course, and those who were not interested in the course. The study mainly targeted freshmen and sophomore students. Their answers provided information about their knowledge of English teachers and potential problems concerning English teachers' licenses. Results showed that some students had stereotypical beliefs about English teachers. Further, even those who wanted to be English teachers had some basic questions and misconceptions about English teachers and their licenses. To solve these problems, we must provide sufficient information about the English teacher's training course for students of Department of Intercultural Studies.